

第1回加西市総合教育会議 会議録

- 1 開会日時 平成27年7月28日(火) 9時00分
- 2 閉会日時 同日 10時55分
- 3 開催場所 加西市役所1階 多目的ホール
- 4 出席委員
市長 西村 和平
教育長 高橋 晴彦
教育長職務代理者 荒木 貴子
委員 渡邊 隆信
委員 内藤 堯雄
委員 多田 久子
- 5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名
理事 一幡 孝明
人口増政策課長 千石 剛
人口増政策課主任 小林 和敏
教育次長 小林 剛
市参事 前田 政則
教育総務課長 中倉 建男
学校教育課長 柿本 博司
こども未来課長 伊藤 勝
生涯学習課長 森 幸三
図書館長 上坂 寿人
総合教育センター所長 安富 均
- 6 傍聴者 一般：3人、報道機関：なし
- 7 協議事項
(1) 加西市総合教育会議運営要綱の策定について
(2) 平成27年度 教育施策の大綱の策定について
(3) 平成27年度 教育の重点について
(4) 会議の開催時期と協議事項等について
(5) その他
- 8 会議内容
別紙のとおり

【別紙】

1 市長あいさつ

2 教育長あいさつ

3 協議事項

(1) 加西市総合教育会議運営要綱の策定について

事務局より加西市総合教育会議運営要綱（案）に基づき説明。

[意見なし・異議なし]

原案どおり承認された。

(2) 平成27年度 教育施策の大綱の策定について

事務局より平成27年度教育施策の大綱（案）に基づき説明。

[意見・質疑]

委員 説明の中で基本理念については、「自立した」という言葉を追加したというお話がありました。これについては、23年度に策定した教育振興基本計画には無いということでしたが、今回、文言追加されるという事で、情勢が常に変化していますので、結構かと思えます。重点目標に対して2点から4点の実践目標があるということですが、重点目標3について実践目標1と2が逆に記載されているが、何か意図があるのですか。

事務局 特に意図はありません。記載内容に誤りがありました。

委員 重点目標5の下には2項目ですが、次の実践項目は3項目あがっているので、合わせるべきではないでしょうか。

事務局 ご指摘ありがとうございます。修正いたします。

市長 実践目標をあえて大綱の中に明記する必要はないのではないか。実践目標は教育委員会にお任せし進めていただき、大きな方向性を示すものを記載することで良いと考えます。

教育長 教育の方向性が一番大事であると考えます。統廃合や地域の問題など教育委員会だけでは解決できないことがありますので、大きな方向性を決めればと思えますが、共有さしてもらうことで良いと考えます。

委員 教育振興基本計画のエッセンスを抽出して内容上の整合性を持たせながら大綱を作るという考え方に賛成で、その方向で進めるべきだと考えます。教育委員会で教育振興基本計画を策定する段階で、市民の代表者のご意見を反映させるとともに、市長とも意思疎通をしておき、大綱では大きな目標だけ定めれば良いと考え

ます。

委員 教育大綱を見て加西は何を目標にやっているのか。今後引き継いで行くべきだと思うのは、例えば「播磨風土記1300年祭」、非常に好評で良く考えられて実行していただいたと誇りに思うのですが、それはそれとして、ずっと引き継いでいくどれを引き継ぐか大事なことだと思う一方、これからは子ども達が生きていく、あるいは教育としてもっとそれと同じぐらい一つの目標を新たなものを作っていくべきではないかな。歴史とそれを踏まえた新しい方向性というものを導きだすような大きな目標が大事だと思います。市長が言われたように重点目標と実践目標の関係ですが、実践目標については教育委員会の方でというのはよく理解できるし私もその方向で良いと思います。重点目標としてあげるのか、実践目標としてあげるのかということに関して、「いじめ」という言葉を具体的にたくさん出すものではないが、他府県のようなことがあってはならないしどこかに一点は入れるべきではないか。また国際交流という観点で、昨年度からプルマン市との交流が再開されたが、国際理解教育として位置づけるのが案としてあがっていない。生徒を派遣して外国語教育についての文言はあるので位置づけられるのではないかな。教育都市かさいを目指すことの文言を重点目標か実践目標であげてはどうでしょうか。

事務局 大枠の方向性は共通の方向を向かわれているので、27年度の大綱については、現在提案した素案の重点目標をベースに大綱とすることで進めさせていただきます。内藤委員からのご意見として頂戴しました「いじめ」「国際交流」については、事務局で揉んで参りたいと思います。

委員 関連で人権という言葉が出ていますが、いじめと人権というのは両方とも考えていかなければならない。人権とからめて考えていくべきだと思います。

委員 いじめについては、重点目標3の中で段落を使って記載があるので、内藤委員の言われていることが網羅されていれば良いと思いますがいかがでしょうか。

委員 入っていれば結構です。

事務局 国際理解教育については、学校が教育で果たすべき役割、重点目標2で、実践目標として中学校英語教育、小学校外国語活動の推進で明記しており位置づけをしておりますので、補足いたします。

市長 重点目標2の中で補強することで良いと思います。

事務局 確かな学力、このあたりで国際理解教育の益々の推進について掲げることはできると思います。

委員 確かな学力で位置づけたら良いと思います。

市長 具体的に選挙の中でもプルマン市との交流再開を市民にお示ししたのですが、子ども達が国際的な感覚を身につけていくのは重要なことです。具体的にプルマン市との再開ができていますので、まずは学校教育の中でそういう文章を入れるように、何らかそういう表現を重点目標の中で入れられるように調整をしていただきたい。

委員 生徒の発表を聞いてみても効果があるなと感じました。外国語の発音も行く

前と行ってからと随分違いますし、自然に身に付いていくようになればありがたいことだと思います。文言を入れるかはこだわりませんが、どんだんのぼしていきたい想いがありますので、よろしくお願いします。

事務局 ご指摘いただいた点について、若干修正を加えるということ。重点目標と実践目標を大綱として扱うには、実践目標は教育委員会に委ね、大綱としては重点目標で方向性を定めるということで、平成27年度教育施策の大綱の取り扱いをさせていただきます。

原案どおり承認された。

- (3) 平成27年度 教育の重点について
事務局より平27年度教育の重点を報告。

[意見なし]

- (4) 会議の開催時期と協議事項等について

事務局 加西市総合教育会議の開催時期ですが、今年度は7月に第1回とし、第2回を10月26日に予定しております。今後につきましては、年度当初に第1回を設け、第2回に予算要求前に開催してはどうかと考えています。運営要綱では随時開催可能という規定を設けておりますが、基本的には開催時期は、春・秋の2回を考えております。

委員 第2回が予算要求前ということですが、会議の内容が予算の要求に反映されるということですか。

事務局 必ずしもこの会議の議論が予算に反映されるか確約できません。教育委員会とすれば、この会議において重点的に予算確保して欲しいというやり取りをしていただければと考えます。予算配分については、若干市長裁量の部分もございしますので、十分な対応とまでは至らないかもしれませんが、教育委員会事務局、教育長を含めた協議を進め、その前段で教育委員会の意見を承るという事を考えているところです。

市長 意見聴取として教育委員さんから要望事項をお伺いする場を設けており、それに加え今回の総合教育会議としての位置付けをどうするのか整理する必要があるのではないか。

事務局 従来11月頃に、市長ヒアリングで採択いただいきたい項目を説明してまいりました。今回は、10月に設定していますのでより要求を事前にお伝えできるかと思えます。

市長 総合教育会議は、もう少しフラットに議論できればと思います。意見聴取の場は、教育委員会事務局として方向性を定めて、こちらが意見聴取をするという2段階方式で良いと思います。

教育長 毎月、定例教育委員会を開催しておりますので、骨子的なものは総合教育会

議で決めさせていただくということで良いと思います。今回の法律改正の目的は、首長との連携というものが非常に大きいことです。できるだけ定例教育委員会の前後に非公式ではありますが、市長との意見交換をできるような、連携というのが一番大事でありますので、方向性をできるだけ時間を設けさせていただきながら共通認識を持たせていただければと思います。

(5) その他（意見交換）

①子育て支援について

事務局 現在、保育料の軽減を多子世帯向けに行っているところですが、今後も保育料軽減についてはもう少し踏み込んだ軽減策をうっていくべきというふうに現在検討しているところです。また、児童館というものが市内にはない中、具体的な内容は今後つめていくこととなりますが、未来型児童館ということで、そこにどういった機能を持たせれば良いか、建設するにあたり魅力的な施設とするために、どういった機能を備えていけば適切かを「子育て支援」というテーマのもとで、保育料の負担軽減、児童館のあり方について少しご意見や総合教育会議による意見交換が行えればと思います。

市長 今回のマニフェストに掲げ進めていくのですが、保育料についてはいろいろな課題をクリアしなければならないことがあります。まずは財政的な問題、4歳5歳だけで1億2千万円、サンセット方式のようにとりあえず3年だけとかはできないと思います。やる限りはしっかりと進めないといけない。現在の行革プランの進行状況は、大変プラン以上の財政的な効果が出てきている状況であります。施設の整備、保育士の確保をセットでないと進められないので、子育てをしていくうえで、大変大きな困難をきたしているのは間違いない。児童館という名称が、加西市児童館というものが、過去にあり名称だけではイメージが良くないということで未来型を前につけました。子育て世代の方々が、望んでおられる施設を作りたいと思っています。市民からは小野のチャイコムが魅力的だということを聞いていますので、それをベースにしながら、しかし、加西市の今の時代にあった、例えば風土記1300年事業をやりましたが、こども狂言で子ども達に大きな学ぶ機会になったのではないかと思います。そういったことも一定引き継いでいけるような施設になれば良いなと思っています。また、加西市は永田萌さんというすばらしい絵本作家・イラストレーターの出身地でもありますし、施設に関連付けるなど作るからには加西市にしかないものをやりたいなと思っています。

委員 保育料軽減のことについて、就学前施設の保育園・幼稚園を回っていつも感じるのは、今年から北条東こども園が新しくなりましたが、反面、老朽化した施設もありその施設ごとの差の大きさ、特に今回は新しいものが出来たので、保護者の皆さんがその差を目の当たりにしたときには、同じ公立の幼稚園に通わせるのだけれども地域によつての施設の差を感じるではないかと思いました。危険な扉や箇所を直すにしても園側の要求すべてをきくことが出来ない状況です。現実問題、毎日毎日の生活の中で必要なところを整備するのが目先で大事だと思います。限ら

れた財政の中で、どちらを優先するのか悩ましいところではありますが、子ども達が毎日生活しているところの危険な扉を先に直してあげたいと思います。

市長 施設整備の見通しがある程度たったうえでしか、保育料軽減は出来ないと思っています。中学校区単位で公立としては、今回、加西中学校区の話が前に進んでおりますが、今後は泉中学校区も進めるには住民合意が必要かと考えております。保護者の皆さんは比較的、施設が良くなってサービスが充実するのを望んでおられます。しかし、地域の皆さんは、地域から公立の施設がなくなっていくことは寂しく思われています。特に泉小学校区はたくさん施設があり、一つにしていくことは難しいですが、先ほど言われた北条東子ども園の新しい姿を見ていただき、次は九会の出来たその姿をみていただいたら全体的に施設整備を急ごうということになるのではないかと考えています。施設整備の見通しがたった段階で無料化ということも取り組んでいきたい。どちらを選ぶ、どちらが先ということではなく施設整備を進めながらあるタイミングで無料化ということを考えています。

委員 未来型の児童館ですが、保育・教育の単なるサービス機関にならないことが大切だと思います。保護者の方ができないことを代わりに行いながらも、本来保護者がすべきことやできることは自分たちで責任をもって行うという、自立した保護者になっていただけるのを支援するような機関になれば良いと思います。そうした意味で、気軽に子育てのヒントが楽しみながら得られるような場所になればと考えます。子育て支援については、すでに公民館や総合教育センターでも実施されていますので、そのあたりを児童館と整理ができればと思います。

委員 古い話ですが、孫が遠いところから帰ってきたときに、ねひめキッズに連れて行ったことがあります。広い遊戯室で遊んだり、工作室で工作したり、ある時間になるとみんなでお話を聞く会もありました。孫は楽しかったようで次の日も行きたがったので連れていった事があります。そういう中で、親御さん同士、おじいちゃん、おばあちゃん同士が話をされており、子育てのことも話をされて、とても良い雰囲気でありがたかったことを覚えています。子ども達が、集まって練習できる場そういうのがあったら良いかなと思います。

委員 機能を持たせて子育てにバランスよく人間づくりの基礎・基本を作っていくのは大事なことです。親がすべきこと、地域がすべきことを整理しないといけない。親が丸投げではうまく行かないと思うので、子ども達が楽しく過ごせる機能がぜひ必要ではないかと考えます。地域のまちづくりと連動するものであり、地域によって、都会の児童館と田舎土地の児童館と随分違うと思います。地域に残っているおじいさん、おばあさんの教育の方が保母さんよりうまく行く場合もあるので、そのあたりをうまく生かせば新しい加西っ子ができるのではないかと考えます。とても良いアイデアだと思うので勉強していきたいです。

教育長 先週、教育委員さんと東播磨の講演会に行ったのですが、幼児教育、就学前教育の投資が経済的にも一番効果があつて、知識を詰め込む教育ではなくて体験により人間形成に影響するということで、今から就学前教育に重点をおくことが大切だと思います。いろんな体験をするような施設、実践や検証できるような施設

になればと思います。

事務局 子育て支援ということで、今後も多面的に取り組んで行かなければならない分野だと考えています。貴重なご意見を賜りながら行政サイドも期待に応えられるような進め方に努めて参りたいと考えております。

②特別支援教育について

事務局 兵庫県の指導において特別支援教育の充実は、どの分野においても根幹に流れている部分であります。一人ひとりの個に応じたきめ細やかな指導を徹底して参るとというのが根幹です。加西市の特別支援教育の現状ですが、小学校で在籍児童58名、教師23名配置、中学校で在籍生徒23名、教師7名配置、特別支援学校で在籍児童生徒39名が高等部まで通っている状況です。児童数が減っているにもかかわらず教職員の数が維持をされているのですが、これは、特別支援学級なので、開級、廃級そしてまた開級などと特別支援学級の担任が配置される関係で、教職員の数は維持されているのが加西市の状況です。小・中学校合わせて30名の教職員が児童生徒の特別支援教育に直接指導の手を入れている状況です。スクールカウンセラーは、中学校に県の事業として非常勤で配置し、小学校へも行っていただいています。毎日のようにスクールカウンセラーに予約が入ってきており、当然、児童生徒本人のことで、子育て親の相談をスクールカウンセラーに頼ってなんとかしたいという保護者が沢山おられます。一方、総合教育センターに発達支援アドバイザーという形で、週5日勤務いただいているのですが、夜間も含め年々相談件数が増えています。継続相談、突発的な相談など様々な相談に、丁寧に真摯に対応している状況ですが、丁寧に対応することで人員が足りない状況にもつながっています。今後、子ども達の数が増えるのか減るのかという観点で考えてみますと、国が法的に指定をしております3歳児健診で若干バランスがとれていない乳幼児がいらっしゃるのは事実で、年々増えている傾向にあります。幼稚園・保育所では、補助員を医師の意見書により付けていくこととなります。義務教育におきましては、支援員を何とかならないか、担任も研修を重ねているが、即座にその児童生徒に学力を保障しようと思えば、一人ではなかなか難しい場面が多々あり、支援いただける指導者を配置する必要があります。スクールサポート事業として、市長に予算をつけていただき、スクールアシスタント、ヤングアドバイザー、スクールケアワーカーを市単独事業として展開し、保護者の方も安心して学校に任せていただいているところです。子ども達の状況も自分が分からないところを分かろうとするそういう学習場面が、沢山のようになってきているのもこの事業の成果であろうと考えます。一方、特別支援学級の種別の中で病弱が、昨年度から加西市において2校でクラスが開級しているが、今のところはスクールケアワーカーという事業でもって支援をいただいています。進行性のない病弱ということで、今のところは医療的ケアを必要としていないのです。今後は、加西市に住居を構え、加西市でお産まれになったお子さんが医療的ケアを必要とされる教育を推進する際に、この子どもさん方が通える学校がありません。従いまして、県立とか加古川も一時あったのです

が、市外からは受け入れないことになりシビアな状況です。そうなりますと、特別支援学校に医療的ケアを必要とする子どもさんの教育を担う看護師の配置など今後は先手をうって考えていく必要があるのかなと事務局レベルで思っております。インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン、一人ひとりがその世界でどう輝いていくのかということをお互いに支援し、そして自立をする。間違いなくそんな世界が見えてきており、みんながかかわる必要があるという中で、加西市の特別支援教育の現状について報告いたします。

市長 今年から始めたスクールケアワーカーは何人ですか。2校ですか。

事務局 小学校2校です。在籍児童は、1校は3名、もう1校は1名の計4名です。

市長 北条東小学校は、1人で病弱の方3名の支援をしているということですが対応できているのですか。

事務局 3名の構成学年ですが、2名が同学年2年で交流学級を含めて対応できております。もう1人は1年生であり主に関わって対応している状況です。

市長 免許は何ですか。

事務局 養護教諭です。

委員 加西の特別支援学校での取組は、非常に粘り強く教育の原点だと思います。教職員が、本当に一途に児童生徒に寄り添って理解しながら授業を進めていかれている姿を見て立派な姿勢だと感じています。努力しないとなかなか出来ないことだといつも感心して見させていただいています。親御さんも学校に細かく対応いただいていることは絶えず言われます。一方、偏見という点で就学前教育において就学指導委員会での判定は重いものですが、親御さんが理解できなくても子どもの実態にあわせ、また親の希望を受け入れていただいているということで、子どもの状況に応じて学校が適正に指導されているのが立派だなと感じています。学校に対して信頼を失うようなことは聞かないので誇りに思っています。

委員 学校の中で体の不自由な子ども達がいると、手を貸してあげたいと思えるような、子ども達自身も一緒にいることで自然に生活できるようになってほしいと思います。そうすることで、同じ学校の中で、手を貸してないといけない子どもが安全・安心に暮らせる状況を作るのは、大人たちの使命であるとともに、行政の支援があつてのことだと思います。スクールケアワーカー、補助員の数がいるけれど十分ではない状況であるという話でしたので、子ども達が安全に暮らせるように知恵をしぼっていくことが必要だと感じました。そして、その中で生活した子ども達が社会に出て、内藤委員が言われたように社会の中で、一緒に生活できるのではないかと感じました。中には命にかかわるお子さんもありますので、指導員の方も十分な数、もしくは資質向上に向けての支援ができるように考えていく必要があると思いました。

委員 市立で特別支援学校を持っているのは、加西市のすごく大きな特色です。通常学校に特別支援教育のための教員が加配されて、特別支援学級でその教育をするときには、日々の専門的な研修が求められると思います。この特別支援学校を起点にして、一般の小中学校の教員の資質能力を高めていくために、人事交流を行った

り、特別支援学校の教員が通常学校の教員を対象に研修などをされているのですが、市としてもさらに推進していければと感じました。

市長 特別支援学校に行くか、通常の小中学校に行くかは保護者の選択なのですか。

事務局 まず加西市が行います就学指導委員会の判定があります。委員としては、関係医師の意見書・診断書等、判定委員も幅広く医療機関から幼稚園まで入れて構成しています。ただ、判定が出たからといって、そのまま入学・入級するのではなく、これを保護者にお伝えして、保護者と十分意見を交換しながらその子にとってということとなっております。

市長 判定の基準はやはりより支援を要する人が支援学校にということですか。

事務局 その子にとってそこが望ましいという最終判定になります。発達検査からくる意見書・診断書等が最終の判断基準になります。

事務局 いろいろなご意見を承ったなかで、今後も丁寧な改善について事務局も対応してまいりたいと考えております。今回は、10月26日の予定で開催したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。これを持ちまして、第1回加西市総合教育会議を閉会といたします。

4 閉会